

同志社大学体育会少林寺拳法部を約10年間にわたって牽引した一人の男が2020年3月31日をもって勇退した。ご勇退式は新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされたが、事前にたくさんのビデオメッセージや感謝の言葉が寄せられることからもその人望の厚さが伺える。そこで安道前監督にインタビューを実施し、監督生活を振り返っていただいた。(ご勇退式で使用する予定であったPVとビデオメッセージは以下のリンクからログインして閲覧可能。https://dshorinji.com/album_OBOG.html)



プロフィール

安道 亮(あんどう あきら)
大阪府大阪市で生まれ、同府高槻市で育つ。
少林寺拳法は高校時代に始め、1986年同志社大学へ入学し少林寺拳法部に入部。
卒業後は大阪院へ進学し、勉強の傍ら京都都鴨川道院で後輩を指導。1992年からコーチに就任し、2008年4月より12年間監督として活躍。
趣味は監督就任と同時に始めたサックス。

第13号
発行責任者
第58代
川村俊太

監督になった経緯や当時を振り返る

—監督になろうと決心されたきっかけは?

安道さん: 実は監督になりたくなかったという訳ではなくて、結果として付いてきたというのが実情です。大学卒業後も、自分の成長のために少林寺拳法を続けていくうちに周囲から認められ、「監督になればいいんじゃない」と言われるようになったんだと思います。京都市こども体育館で行われたイベントの時、駐車場の車内に林先生から監督を突然頼まれたので、おにぎりが喉に詰まりそうになりましたね(笑)。

—安道さん的人柄が既にたっぷり伝わって来ましたね(笑)。就任当時はどんな状況だったのですか?

安道さん: 当時は総監督と監督がいらっしゃり、対連盟(林総監督)と対大学(中田監督)に分かれていきましたね。だから私が監督になる時に窓口を一本化して効率化を図りました。OB・OG会も会長が小川さんから中尾さんへと交代したので、OB・OG会や指導陣も一新しました。



前人未到! 関西学生大会九連覇達成!



—では技術を指導する上でどのようなことを心掛けていましたか?

安道さん: 本部で教えている正確な技術を伝えることを大切にしていました。具体的には、開祖の直弟子だった林前総監督の技術を正しく継承すること、また本部主催の学生指導者研修会にも積極的に参加することを心掛けました。その結果、他支部の方々から「同志社は技術がしっかりしている」と言っていただけるようになったのではないかでしょうか。

—確かに私自身もいろいろな大学と交流する中で我が部の技術力は評価されているように感じます。他に何か部全般で心掛けていたことはありますか?

安道さん: コーチやトレーナーの皆さんとの個性を最大限尊重することです。大会に出て自らの背中で語ってくれる人、怒り役を買って出してくれる人、様々な個性を上手く融合することが大切だと思っていました。当然ダメなことはダメと言いますけどね(笑)。

—いろいろと気配りされていたんですね。それでは一旦休憩を挟みましょう。



2007年春合宿。林清嗣先生(当時総監督、中央)、安道前監督(当時コーチ、中央左)、前川新監督(当時コーチ見習い、中央右)。

—当時の現役部員の様子はどうでしたか?

安道さん: 当時はハチャメチャで個性的な部員も多かったですが、楽しかったですね。なかでも、2009年にインドネシアで開催予定だった世界大会は印象に残っています。世界大会自体は直前のテロの影響で中止になったものの、最終的には演武発表会として実施されました。出場予定だった45代の春名・村上ペアは、出発当日のギリギリまで修練するくらい一生懸命で、何とかしてインドネシアへ連れて行ってあげたいと思っていたので、演武発表会へ出場させてあげられたことは非常に心に残っています。

—世界大会ということは、成績が優秀な方が多かったのですか?

安道さん: 個人的に優秀な成績を収める部員はいましたが、部全体として入賞者が多かったわけではなかったですね。それが変わったのは、例えば「関西学生大会で総合優勝する」など、具体的な目標を定めて部員全員の意識を統一できたことがきっかけです。現役部員と監督・コーチが目標に向かって、具体的な修練方法を考え実行するなど、皆で一致団結できたことが結果につながってきたと思います。

—部を運営する上で大事にしたことやその取り組みなどを教えていただけますか?

安道さん: 技術を指導してほしいという現役部員の希望にこたえるためには、演武も運用法も満遍なく教えることができる指導者を増やすことが必要でした。試行錯誤を重ねながら、今のような運営の体制になってきましたね。



2019年度に本部で開かれた学生指導者研修会の模様。

ちょっとひと息

安道前監督クイズ

Q1. 監督が好きな技は?

- A. 押門投
B. 送小手
C. 前髪捕



Q2. 監督のカラオケの十八番は?

- A. 小泉今日子
「あなたに会えて良かった。」
B. Foorin
「パブリカ」
C. NEWS
「チャンカパーナ」



- A. パエリア
B. チャーハン
C. 焼飯

答えは最後!

Q4. 監督の小さい頃の夢は?

- A. 獣医
B. 消防士
C. YouTuber



Q5. 監督の好きな少林寺拳法の言葉は?

- A. 健康増進
B. 脚下照顧
C. ダーマ



—引き続き、監督として大事にしてきたことは何か教えてください。

安道さん：「外部の方々との円滑な人間関係を築くこと」と「何事も部員ファーストであること」、この2つを大事にしてきました。監督が他の大学や道場の先生ときちんと人間関係を作っていくれば現役部員の皆さんも活動しやすいと思います。また、こうした他支部の方々との繋がりがあれば支え合い助け合うことができるんです。部員ファーストについては、現役部員に対してメリットがあるかを最も大事にしました。監督が周りからどう評価されるかではなく、部員自身がどういうことを達成したいのか、どう成長したいのか、を意識していましたね。

—続いて、監督をしていて楽しかったことや嬉しかったことは何ですか？

安道さん：卒業してからもご飯に誘ってくれたり、結婚式に呼んでもらったりすることですね。卒業後も同じOB・OGとして関係が続いていくことに楽しさや嬉しさを感じます(笑)。



宗道臣デーとして、上京区役所と連携して交通安全運動を実施。

—具体的に教えていただけますか？

安道さん：京都府連盟からイベントへの出演をお声がけいただいたり、我が部への入部を希望する高校生が増えたり、といったことです。大会成績だけでなく、京都府連盟の行事にも積極的に参加したり、高校生や他大学、実業団と合同練習会を開催したりすることで周りとのネットワークも強化されて、同志社への評価が上がったのではないかでしょうか。それと、当時は若い監督が少なかったので、京都府連盟からいろいろと可愛がってもらえたのも要因の一つだと思います(笑)。

—大変だったこともあったと思うのですが、どうやって乗り越えていましたか？

安道さん：これに関しては我慢して耐え抜くことしか無かったです。コーチが何か失敗しても監督が責任を取ることができますが、監督が失敗してしまうと次が無いんです。立場上相談し辛いこともあります、我慢して耐え抜いていましたね。でも、周りの大学の監督に助けていただいたこともあります。人間関係って大事ですね。



50代黒柳さんの結婚式には、安道前監督をはじめ多くのOB・OGが集合。

—確かにそれは嬉しいことですね(笑)。逆に、嫌だったことはありましたか？

安道さん：部員の皆さんのが卒業していくのが嫌でした。泣いてしまいそうになり、卒業式にも行けませんでした。監督1年目に部員が卒業していくのが寂しくて「監督を辞めたい」と他大学の監督に相談したことを覚えています。でも「4月には新入部員が入るから、また新たな繋がりが増えるよ」と教えていただいたんです。それからは、その言葉をモチベーションに頑張ることができました。

—一人との繋がりがどんどん増えていくことは、良いことですね。まだまだ聞きたいことがたくさんあるので話を戻しますね(笑)。ご自身で振り返ってみて、監督としての功績は何だと思われますか？

安道さん：“同志社ブランド”というものができたことです。



2018年から復活した関関同立合同練習会で指導する安道前監督。



今後の期待とメッセージ

—今後の部へはどういったことを期待しますか？

安道さん：グローバルな部になってほしいですね。世間を見てみると、会社組織はグローバル化してきています。留学生に英語で少林寺拳法を教えることができたり、海外の拳士の方々が来日された際に同志社に寄ってもらえるようになれば嬉しいです。

—今の現役には英語が堪能な部員が多いですから、是非頑張っていきます。それでは最後に前川新監督、コーチ・トレーナー、現役部員へそれぞれメッセージをお願いします。

まずは前川新監督へお願いします。

安道さん：うーん、これまでにいろいろと伝えたし、あまり多く言うことはありませんが、とにかく大会成績に重きを置くのではなく、私の積み残したグローバル化に取り組んでほしいです。

—次にコーチ・トレーナーへお願いします。

安道さん：無理をしない範囲で自分の人生を大切にした上でこの部に関わってください。

—続いて現役部員へお願いします。

安道さん：大学生の本業は勉強なので勉強をしてください。そしていろいろなものに興味を持って遊び、行動してください。

最後に、引退にあたり、勇退式は中止となりましたが、若手OB・OGの方々と現役部員の皆様から、心のこもった寄せ書きや記念品を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

—本日はいろいろとインタビューに答えていただきありがとうございました。

安道さんには技術以外にも本当にたくさんのこと教えていただき、感謝してもしきれません。同志社大学体育会少林寺拳法部一同、安道さんの益々のご活躍をお祈り申し上げます。



1999年当時の安道コーチと前川第36代主将。



安道前監督から前川新監督へバトンが引き継がれた。



BBQをする料理好きの安道前監督。



十八番を歌う安道前監督。

Q1.押門投

～正解～



Q2.小泉今日子「あなたに会えて良かった」

Q3.パエリア



Q4.獣医

皆さん
正解できましたか？

Q5.脚下照顧

クイズの答え